リーダーシップ

新ごみ処理施設等の建設に対する市長の考え

細谷　美恵子（発言と行動する会）

行田市・北本市で共同し、ごみ処理施設等を鴻巣市内に建設する話が進んでいる。行田市民にとって最も良い方向になるよう、市長はリーダーシップを発揮しているのかを問う。

市報12月号の情報提供では共同建設すれば安くなるというが、これは焼却炉本体の建設費のみの比較であり、新たな用地取得、盛り土、周辺道路整備などの費用が含まれていない。また昨年急に市長間で合意された余熱利用施設（温泉・温水プールなど）建設や運営にどれだけの経費がかかるか分からない。まして建設候補地や余熱利用施設を建設することについては三市の各市議会で承認されているわけではない。

問　市長は小針を候補地と提案しなかったのはなぜか。鴻巣市になれば搬入先が遠くなるため経済的には不利ではないか。

答　鴻巣市長からの提案を受けたものである。鴻巣市内が地理的に中心で妥当と考えた。

問　当該地は現在「農振」除外ができずスケジュールが遅れているが。

答　適正に計画されて進んでいると思う。

問　突然出てきた余熱利用施設の建設計画に市長はなぜ合意したのか。

答　余熱の有効利用と地元要望に応えるためであり、行田市民の福利厚生にもつながると思う。

問　本市から遠く利用困難な温泉の建設費用を分担するのか。また今後長きにわたる運営経費の分担協議にまで、なぜ応じるのか。全て市長責任で進めていると見えるが。

答　三市で進めている。

【その他の主な質問】

○空き家バンクの拡充

安心・安全

通学路の安全対策　早急の対応を

梁瀬　里司（黎明21）

問　テレビや新聞報道等で、子供たちが登下校時に交通事故に巻き込まれる事故が多発している。このような中、本年1月、泉小学校前の歩道橋が歩行部分の損傷により通行できない状況になり、市に確認したところ復旧の目途がたっていないとのこと。この間、子供たちは交通量の多い道路を渡らなければならず、非常に危険な状況となっていた。2月には応急措置により通行可能となったが、通学路危険箇所の早期対応の考えを伺う。

答　泉小学校前の歩道橋は、階段部分が破損したため、緊急的に通行止めの措置をとった。その後、調査を実施した結果、大規模修繕工事が必要となることから、今後本格的な修繕を実施していく。

問　今回のケースでは、工事を行う担当課と1日も早く通行可能にしてほしい学校サイドで認識が違った。今後、道路管理者、教育委員会、学校等の三者で早急な対処の仕方を話し合うことが重要と考えるがどうか。

答　施設管理者として、応急修繕工事が可能か、大規模修繕工事が必要か、利用者の安全を考えた中で判断時間を要し、不便をかけてしまった。今後は、教育委員会、学校と連携を図り早急に対処できるよう努める。

【その他の主な質問】

○JR行田駅前再整備
○犬猫の殺処分ゼロ
○陸王終了後の取り組み
○うどんでまちおこし

泉小学校前歩道橋

交通安全

交通安全対策について

大河原　梅夫（公明党）

問　通学路の歩行者用専用路側帯をカラー舗装化した事で狭い道でも安全が確保された。自転車の走行位置を示す路側帯をカラー舗装化する考えはあるか。

答　道路の幅員、自転車利用の状況等を踏まえ、整備可能な箇所について検討していく。

問　自転車のTSマークの取得は損害賠償保険加入促進のために非常に有効であることから、助成を検討すべきではないか。

答　近隣市と情報共有を図りながら、金銭的な補助も含め本市に合った加入促進策を研究していく。

●中高年の引きこもりについて

問　中高年層と働き盛りの方の引きこもりが増えている。要因として親の高齢化や子どもが病気を持っているなど、孤立し、精神的に追い詰められてしまう。支援体制の構築を急ぐべきではないか。

答　相談について、現在、市では主に福祉課、保健センターが窓口として対応しており、県では、越谷市にあるひきこもり相談サポートセンターや各保健所及び精神保健福祉センターを窓口として対応している。

今後は、庁内の連携はもとより、関係機関との連携を密にして、相談者に寄り添った適切な支援に努めていく。

問　ホームページ等で豊富な情報を発信することも、声を上げられない方への強力な支援になるのではないか。

答　現在、市報において、加須保健所実施の引きこもり専門相談等の情報を掲載しているが、ホームページでの情報発信の充実について、先進市を参考に検討していく。